

# まんがジャーナル

創刊号



木雄

満天の渴望に充えてここに本格的まんが評論誌

堂々の刊行!

◎なぜぼくらは それでも まんがを  
 読むのか? (高宮成河) — 3  
 ◎"跳び越せない側の子供たち"  
 — 樹村みのり 論ノート その1 —  
 (亜庭じゅん) — 9  
 ☆お知らせ — 12  
 ◎ロマ・ゴッホ 華麗な世界への招待  
 (中込寛) — 13  
 ◎悪い冗談\*あるいは\*ダディ・  
 グスについて私も知らない2.3の事柄  
 (村上知彦) — 17  
 フラム・コラむ (井上幸一郎) — 22  
 ☆折り込みジューナール — 22と23の間  
 ◎薄明の現在について  
 (中原 蘭) — 23  
 ☆編集後記・次号予告 — 27



ぼくらのアイドル ニジンスキーに  
 ぼけましの おたよりを出そう!

現代思潮社「ニジンスキーの手記」¥900

◎なぜぼくらは それでも まんがを  
 読むのか? (高宮成河) — 3  
 ◎"跳び越せない側の子供たち"  
 — 樹村みのり 論ノート その1 —  
 (亜庭じゅん) — 9  
 ☆お知らせ — 12  
 ◎ロマ・ゴッホ 華麗な世界への招待  
 (中込寛) — 13  
 ◎悪い冗談\*あるいは\*ダディ・  
 グスについて私も知らない2.3の事柄  
 (村上知彦) — 17  
 フラム・コラむ (井上幸一郎) — 22  
 ☆折り込みジューナール — 22と23の間  
 ◎薄明の現在について  
 (中原 蘭) — 23  
 ☆編集後記・次号予告 — 27



「オニのリアリティ」の底には在る  
というところがある。「オニのリアリ  
ティ」の中に居る時のぼくらには殆ん  
ど二重人格者だ。「オニのリアリテ  
ィ」つまり、まんが世界に頭までつか  
っている自分と、そんな自分を醒めた  
目で見てゐる自分とが、ほぼ同時に  
存在してゐる。「たかがマンガ」と  
云ひながら、その言葉に或る重さを  
こめて使用してゐる者だ。  
さてここでようやく、先行機業す  
る各まんが評論にも比ぶることができ  
る。それらとぼくらとの間にあるズ  
レは、つまり「オニのリアリテ  
ィ」が各評論の言葉の裏にあるか  
ないか、(二)又は、各まんが作品を扱  
うのとき、そのベースとして「オニの  
リアリティ」が存在してゐるか、(三)  
それに加えて「たかがマンガ」と云  
える醒めた目を所有してゐるかどう  
かによつて発生してゐるのだ。くだ  
いて云えば、まんがが民衆の武器で  
あるだけの戦術社会とまんがだけの  
「オニ」現実のリアリティのみをベ  
ースとして、まんがを評價・評論す

るといふ態度は、ぼくらにとつて  
もはやアンセンス存のた。とは云つ  
ても、ぼくらにはそれらの態度を全く  
否定しようというのではない。向題  
性、まんがを現実のリアリティのみ  
を標準として、評価・評論するとい  
うところにある。  
もつとくだいて云うなら、ある一  
つのまんが作品を優れているという  
だけの理由で批評・評価したなら、  
つまり例を挙げれば、一人の美術評  
論家がカムイ伝を、美術的、文藝的、  
思想的等に優れていると批評したな  
ら、それはぼくらとは決定的にズレ  
てゐるのだ。彼がカムイ伝を優れて  
いると認めるというところは、云いか  
えるよ、カムイ伝が彼の精神世界の  
一角に有意味な位置を占めるという  
ことだろう。しかしその精神世界が  
美術的、文藝的、思想的に何もので  
まんががその要素として構成する世  
界でない限り、その批評・評価は  
ぼくらとは永遠に無縁だ。そしてそ  
のよな批評・評価をぼくらには僭越だと  
決めつける。よかような資格で

ぼくらには、まんがをあるべきもの、  
共通言語として自覚してゐるといふ  
ことと、過去から現在まで、それが  
優れている、いかに面白く、ま  
んがだからこそ読んだらというこ  
と、加えて現在、自分の存在の主要  
素として、まんがという語を軸とす  
る世界を所有してゐるといふことに  
おいてだ。  
ぼくらには、まんがとぼくらとの共  
犯関係という言葉(三)もふり切るこ  
とができる。ことさら共犯などとい  
う、まんがとぼくらとの間に電位差  
をつくり出し、使用しなくとも、ぼ  
くらにはまんがとはもうスキマなくく  
ついでゐるのだ。共犯という言葉は  
醒めた、或る行為か。犯かあるとい  
認識する意識という内容を含んでい  
る。と云ふがぼくらには、まんがとい  
う言葉はもうここでは使えない。ぼ  
くらにはまんがであり、まんがはぼく

らだけのだから。つまりぼくらは全く  
「犯」を意識しない。イヤレなく  
ていいのだ。たとえ、他者が側で見  
まいて、それは「犯」だと云つたと  
しても、それは「犯」に過ぎない。  
云へば共犯関係なんぞトバは、ま  
んがに対して使用するにはイササカ  
おあやすすぎるのだ。  
又もや危険を覚悟で云い切つてレ  
まえば、まんがに關して「オニ」のリ  
アリティは必要ではない。「オニ  
のリアリティ」をベースとして、発  
表されるすべてのまんが作品は、ぼ  
く個人にのみ発表されている。ぼく  
は絶対君主の立場ですべてのまんが  
作品に臨むのだ。だからぼくらは、  
絶対まんが世代であり、エリートな  
のだ。  
「おし」のジョーレが終了して、  
他に見合うだけの看板作品がない少  
年マガジンは、ある程度、発行部数  
が減少するだろう。しかし他ならぬ

それがまんがだから、なお読みのつづけている人達、その人達はつづけたのジョーシを讀みつづけておれよ。それがまんがを讀んでいたのだ。そしてその人達は、ほくらと世界を共有している。

なぜ、ほくらが、それでも、まんがを讀むのか？ その答は、いささかギョマンめくのだが、「なぜ」といふ言葉は、ほくらには必要ない。ほくらが、それでも、まんがを讀むのだ。と云えば、それで十分なのだ。

73.4.29 輔

- ① 「白痴有無」8号 岡崎義和・公書評・宮谷一彦・性触記
- ② 「まんがのむし」通巻9号 青木治道・編集後記
- ③ 「まんがコミュニケーション」青藤次郎・まんがコミュニケーション宣言

◎ 跳び越せない側の子供たち  
— 樹村みのり論ノート その1 — 亜庭じゅん

「薄明の現在」に樹村みのりのついて随筆だと書いてきたら、跳び越えてび箱しという作品を例に挙げて、ドラマ性もあるのだという批判を受けた。この作品についてどういう評価は、以前にも書いたことがあり、知ってはいたが、最近まで作品をみるチャンスがなくて、拝聴するに比べておいたのだ。ところが、偶然とび箱しを手に入れることができた。その結果、数少ない作品しか知らない私も、自分存りの樹村みのり像を捉えられそうなきがしてきたのだ。いわばオトシマエをしてくれる意味で、樹村みのり論を提出することにしました。

ところで前述の「ドラマ性」云々の批判についてだが、この批判には

★ スローガン

殺すに殺せず、生かすに生かせる事態に立ち到って、ナブリ殺しのめにおり、いまだ明幽の場に迷っている我らのジョーシのため、梶原一騎・ちびてっや・少年マガジン編集部をぶ殺そう!!!



ぬり忘れたのははり

ある程度誤解が含まれている。こちらの用語の不適切もあって、随筆と称したのは、(むしろエッセイと呼ぶべきであらう) 樹村みのりの作品相成の方法論についてのことでは、たのぼ。後で詳しく述べますが、樹村みのりの作品は、基本的に一人称の作品であり、作品の表面で展露される筋の起伏、人物の心理経過の背後に、作者自身の内部の論理の展開が看取される。そしてそれが、虚構世界として自立した空間の閉じられぬ穴となつて、その非完結性故に樹村みのりの作品が読者に突き刺さつてくる質を獲得しているという意味において、僕はあえて随筆凡と云ったのだ。樹村みのりについて諸君と語る時、たとえば萩尾望都や水野英子について語る時とは異なる、たまたまのことばが必要とされ、樹村みのりという人物に触れることな作品を語るという客観的な、安全

存在置に身を置くことによりしるめた  
 感を感ぜせるのも、そこに理由の  
 一半がある。樹村の力に力づくで語  
 るという事は、必然的に樹村の力  
 りを羨望する事とあり、その危険  
 と責を負う事と存るのである。

さか問題のフ跳やないこと箱して  
 ある。この作品は、リトルコミック  
 が廃止された翌月、五月五日号に発  
 表された羽原の大作である。家に新  
 しいおかあさんが来るというその日、  
 帰宅が遅くなったおれ、その母親  
 に対する心持を素直に表出する村公  
 を失った少年が、その娘に甘えたい  
 と思いつつ、おれを表に出せず、  
 その態度を母親への嫉妬と誤解する  
 周囲に対して、自分の心を閉ざして  
 くるを得なく存つていく過程を、体育  
 の時間に跳び箱をどぶと扱ってきた  
 せいということにカアル・イメージさ  
 せながらおれ、最後は、友人のこぼ  
 れがさっかけと存つて、少年の心の  
 壁が、なんでもなないことの上に築  
 かれていたと悟り、少年はどぶ箱を  
 とび越える。——以上がその概略で

ある。樹村の力としてみれば、やっ  
 長ではあるが、しかし、少年が完全  
 に自分の中に閉じ込められ、踏ん  
 られに身を任せられた時、一瞬して  
 クライマックスに至る、少年の心を  
 縛つていたものが次々に崩れてゆく  
 過程の盛り上がりは、オゾとあり、  
 劇的と形容してもおれぬ。しかも  
 わらう、僕が樹村の力をドラマの  
 作家と呼びたいのは、この作品が、  
 一見心理を描いているように、実は  
 二におれを論議されているのが論理  
 から存りだ。

この作品の扉絵の上方に「フツ  
 と、この書き込まれている。」「跳び  
 越せない側の子供たち」(傍点 重産)  
 と言うまでなく、この作品の主人公  
 は一人であり、その意味から云えば、  
 二はおれを子供たち、おれは「子供」  
 であるべきだろう。おれが「子供」  
 と複数になつていくには意味がある  
 筈だ。二で考えなければ存りない  
 のは、実は、樹村の力、どぶ箱の  
 力が、オゾエー作の「どぶ箱」

状、既にどうであつたように、この  
 フとどぶ箱と同じく心の中に築かれ  
 た壁の問題を、おれが少年おれ扱  
 ているというところがある。(おれも  
 大げさな芝居が、おれ理由によつて  
 築かれたものではなく、この作品に  
 おれられるように、おれは「子供」  
 といふ、日常生活の小さな亀裂に  
 おれられ、一層本質の存りという  
 ものに起因して作られたものなので  
 ある。おれが「子供」存性質を持つ  
 ものかは後述するが、自己に対して  
 大きな関わりを持つことにはおれ  
 ておれ、おれは「子供」の「子供」  
 といふ、単にこの作品の主人公の  
 一君を指すだけなく、オゾ一般  
 的の意味おれを含まざるを得ないこ  
 とが理解されるだろう。オゾ、  
 どの観点からこの作品を語り返  
 して見ると、次のように存性質に  
 ことには存り、存り、オゾ、  
 一」とおれを存り、オゾ、  
 一」の線に抽象化された心理過程で

ことである。一君は、無論、観念  
 の産物であるデク人物ではない。し  
 かし、読後、読者に迫つてくる感動  
 は二人の人物のオゾクターでも生活  
 の奥感でもない。オゾには、心理  
 描写の巧みさを入る余地はない。長  
 だに倒的存一つのみ、ダイナミズムの軌  
 跡が、おれから一瞬して輝きわたる  
 解放、へと向かう運動のエネルギー  
 が、この感動をオゾするものである。  
 樹村の力りの作品の存る感動の強  
 さは、この純化されたダイナミズム  
 の力によることが大であり、その下  
 めにオゾオゾクターの無知性を  
 要求されているのである。オゾ、  
 どの観感におれは、一つの「おれ」  
 であるだろう。樹村の力りの作品に  
 関する限り、おれは「おれ」  
 といふ、この「おれ」以外に必要と  
 れない。先にも述べたように、作品  
 の描く力の心理ではない、ダイナミ  
 ズムの線に抽象化された心理過程で

ある以上、それは、特殊化された個人の内から離れ、一般化されたいかざるを得ないののではないだろうか。こうして問題は、二の「私」が、作者と読者の間、いかにも関係にあるのかという点に拘って行くことになる。

(二の橋をく)



早平くんとかちこちゃんの夏休みの絵日記 (F)

☆お知らせ☆

読くらばは、今、効果的なまんが評論の身体術を方法論を、模索中であります。

各種の企画が予定されていますが、その最初の試みとして、「まんが雑誌ミナール」を主催したいと思えます。その「まんが」がゼミナールのテーマを募集します。

いかなるテーマであろうと、皇國隨一のキムワークを誇る。まんががジャーナルは受けて立つのです。

ぼくらは、輝く日本の星となるため、日夜 戦い続けているのです。

大山倍達大先生を おいこすために 空中四段ゲリを完成させよう!

◎ ロマ・コメ 華麗な世界への招待

中込 寛

パイオニアというか、僕一人だけがある趣味をやっていると思っ、ていた時は寂しく、むしろ仲間は欲しかったが、ひょつとしたら一番楽しかった時だったんじゃないだろうか。SFとかロクとか、いろいろあるわけだけれども、僕一人と思っ、ていたのが、皆相当の知識人だ、たりすると、うれしい、やっぱ仲間に会えなくて気持ちより、チエッ俺一人だけだと思っ、ていたのに、その方が先ずくる。

その段階がすぎると次はその仲間とダベリ始め、やがては本の趣味よりもその仲間とダベる方が楽しくなるのだが、これはまっさかおこ、本当のとは、もっ、と書き込みたいのだが、というのもその仲間が集ま

てダベる楽しさというか、その中のコンストラクティブな面を全く理解できず、時間の浪費のように考え、なにか高尚な議論をしなれば、という馬鹿が多すぎるからなのだが。そして特にそれはマンがファンの中に多いというところ。僕一人だけが少女マンガを読んでいると思いは、ずいぶん前から徐々に消え始めたが、漫画大会の会場で十数人の同好者に会った的、それこそさつ、書いてきたように、チエッという気持ちに、マシマシ。

しかしそうやっても、やはり僕一人というようにしたい気持はあつ、で、僕等へしかたなく複数になるが、の趣味は少数派というか、本当の少女マンガの面白さのわかつているグループは、と存ると当然というより、マンガがマニアなら常識だが、いわゆる漫画

評論家のまうに一言も触れたいが、下らんといふ切手合はバカ、アホ、アキメクラと存る。こゝで一人一人をとりあげ、石子順造、少女漫画は目玉が小さくならない限りダメ（へん書人）——アホか？ ○〇（例えば萩尾望都でも水野英子でも存るでモいい）読んだことあるのか、ナンセンス。存るでケナシてモいいのだが、品が悪く存るし、これを読んだられる諸子にはアタリマエと思われ、常識存のど省略しよう。それにいすれ他の人が、いわゆる評論家のピントはずれな点とついても、こゝで書いてくれるだろうし。

とにかく少女マンが、現在隆盛期にあり、今、特出すべき作品はほとんど少女マンが誌に発表されてゐることは読んだことのない人以外存ら、よつほどのバカでない限り、わかることだろう。つまり、いまや水野英子・萩尾望都・竹宮恵子・もりたじゆん・一条中かりなどの作品群は高く評価されて当然存ことだ。こゝで先程のバカ少女マンがの本

当の面白さとなるわけだが、上記の作家のある作品群は、モロヤ少女マンがどいつたリクの外にあり、昔、COM誌上で、ときたま見かけた少女マンがの東氏叔々という類への例証には存りえない。

こゝでとりあげたい存ら存りののは、モロヤ少女マンがらしり少女マンが、どう通称ロマ・コメと呼ばれてゐる作品だろう。

ロマ・コメと呼ばれるものの悪口は、それこそいよいよ程聞かされてきたし、二の僕もいって来た。くり返そうか？ いわく「男・女・女の三角関係の謎、いわく「パターニング・ステロタイプ、いわく「ヤンギンギラギラの女（美人）可愛らしい女の「ハビロイン」ハンサムの三人が描けりゃいい、いわく「疑似恋愛ゴツゴツ」しかし、この非難はそのま手裏返しにそのま少女マンがのオモシロさにつけが存るのだ。それだからオモシロイのだよ」の一言で軟弱に片付けてしまおう。クラシック台所のことで野田俊一郎氏が一つ一つの作

品は、完成度とか密度を問われると砕かに低い、それらがゴキヤマセになつてかもし出す雰囲気、それが好きだからスベオヤを讀んでゐる。といった意味のこゝを何かで書いていた。それはそのまロマ・コメに通じること存んだし、ロマ・コメの本質存のだと思ふ。

と、こゝで言い切ると飛鳥幸子や大和和紀のモノモ住石存りや牧野和子も同列という存りに存りかおない。しかしこゝで、さつさ云つたステロタイプ化されたストーリーという言葉がでてくる。設定・人物構成が似かよつてきた存ら勝負は相図・コマ割り・画風の大きく左右されるし、その設定で一ひねり二ひねりされてい存らそれこそナンバーワンだ。

どう存るとこゝで忠津陽子の先を登場させねば、存りがロマ・コメ、ンという非難をうけるだろう。豊富存キヤラクター・華麗存コマ割り・

ゼンスもあるギヤグなどヤ一人者と呼んでは云いすぎだろうか？

忠津陽子の登場は、それまで主流だったいわゆる泣きメロ・スポコンをおさえ、恋愛マンがのモウ陰湿さを松つた、まったく新しい作品群——ロマ・コメの地位を砕か存ものだしといえる。

しかし忠津陽子がオモシロイと僕がいつたからといつて、パツと読んだマールがレットの作品がオモシロク存いといわれても困る。

さつき書いたまうにロマ・コメはそれらの織り存る雰囲気だ読め、その中に浸り切つてこそオモシロイものだし、特に忠津陽子の場合、長編があまりうまくないという欠点がある。（長編のロマ・コメ存ら、むしろ一条中かりがもしれない）しかも原作者つきの作品を讀んでの苦情存ら、おさのどくどすが、あ存は存ら、と存下らないカスをつかまされたの

必ずしもかえりよつがない。原作者の  
 意へ原作者はテレビ作家の例のイモ  
 に存ると設定はよいのだが、その設  
 定が生かされ切られていないという、  
 ストーリーが本村三四子にまで落  
 ちているのですから……  
 とまああれ、もしあつたがロマンコメ  
 を読んでおきたいというなら、最近の  
 リボンか別冊マーガレットを一年分  
 ぐらひ買ひ込み、一晩かかって読ん  
 でお存さい。もしオモシロクなかつ  
 たらマアしかたのないことですが、し  
 かしスーパードヒーローしかいない少  
 年マンガや、サウパツとした、セッ  
 クスとギャンブルしかない青年マン  
 が少しは有かオモシロイものであ  
 ることだけは保障します。

② テレビCM・名場面集なのだ  
 その上

「カメラさん ニっち寄って！」

ハマ~~~~~

大橋巨泉



◎ 悪い冗談★あるいは★ダディ・グ  
 スにっついて私を知らない。その事柄

村上知彦

ダディ・グースにっついて語れと指  
 示した編集者さぶつ殺してやりたい。  
 彼のほぼ全作品を読んではいて、  
 彼にっついて、その作品世界にっ  
 ついて、さだかたは何も無いのだ  
 から。

トートツに、真崎・守凡に云つた  
 のけてしまえば、「學聖の星」から  
 「焼けッポウのブルース」を経て、  
 「ダディ・グース」もまた、突然「マ  
 リ・アントワネット」の下駄占ハレハ  
 とツン抜けたのだ。もちろん、心  
 情的には「砂漠の流れる」方を支持  
 していても、ベキソンの最高傑作は  
 と聞かれれば、やはり「ワイルドバ  
 ン」を挙げるように、ダディ・グ  
 ースの最高作もまた、心情的には「

下駄占ハレであり、客観的には「焼  
 けッポウのブルース」存のた。  
 東京圏は原宿で、はじめは彼とお  
 ぼしき人物に会ったとき、日向翔  
 哉、きつと赤ハルがよく似合ったの  
 だらう。「焼けッポウのブルース」  
 の原題と、いか横文字タイトルは  
 "Not such a fool as he deary drink"  
 款すよ、人がいうほど俺はのめはレ  
 ないさ、ただ人より哀しいだけさ、ま  
 りさあしらすぶつて、これはやりさ  
 れ、おぼろげに知つた、ただ存  
 のさレに存るのだらうか。そうは云  
 いのつ、彼は常に「レ」なふれである。  
 「御兵復治」だつて、どう遠くないだ  
 らう。海外派長だつて、あと数年だ、そ  
 れに相応して、おぼろげの死期だつて、さ  
 えずく存い、まあそれ、さあ、さあ、さ  
 崎友紀に想いのたけを語るシーンで、  
 彼はおぼろげにほかに醒めている。そ



在のせう。もともと其崎・中の子  
 うに方法的自覚に達し製作は  
 く、映画の優さの著しに於ては  
 存かたのたかむ。却が乗って、描  
 きたいものだけを描きまくらう、  
 在まにまこの二連の語が果上が  
 在といふだけのことか、もとも  
 ひとつだと考へる方が當かも知  
 存い。

そして返つて七をさうに、在  
 俊彦名義のミステリ小説「抱きしめ  
 たい」が登場するに及んで、事態は  
 全く新しい様相を呈しはじめた。文  
 筆に趣向したから、というのではな  
 い。グレイ・グースにとつて映画以  
 外のメディアはすべて代用品にしか  
 すぎないのだから。そうではな  
 くて上手すぎるのだ。せつかく切り  
 拓いてきたミステリとパロディの融  
 合したあの語り口が清くましまつて  
 いる。「命枯れても」の地点からや  
 り直したと思えばそれはそれで良い  
 のかも知れないが。

- 69.12.18 「ビートルズだつて夏を歌えない!!!」 週刊漫画アクション
- 70.2.6 「学聖の星」の部 DZ THE BEACH」 サンデー毎日増刊「映画と漫画」のイラスト「19オと18オ」
- 70.8.7 「サンデー毎日増刊「映画と漫画」」
- 70.10 「蒼ざめた野次馬」 COM
- 70.12.5 71.4 「悪い冗談」(未完) ミステックレター ⑤準備③
- 71.1.24 「焼けた伊ちのブルース」 漫画アクション増刊
- 71.7.27 「貧乏くじはげが引く」(未完) ヤングコミック増刊
- 71.マ? 「マリー・アントワネットの下駄占い」 週刊漫画アクション(2回)
- 71.11 「マリー・アントワネットのちり紙交換」 タツ子(未完)
- 71.11.25 「月光仮面暗殺物語」 築摩書房少年漫画劇場⑦
- 72.2.23 73.3 「馬鹿かしさの夏」 村松大次郎の「方法序説」

グレイ・グースはまた新しい一歩を踏  
 出した。オリジナルのストーリーリ  
 を放棄したと自覚は、もともさし  
 て珍しいとも云えたいが、銀河場合  
 あくまで映画を念頭に、自覚を担当  
 をキヤスティング、演出、プロダク  
 リ、と認められていよう存の  
 興味を毛てる。それがもはや漫画に  
 は叫べない地点まで進むことができ  
 るかどうか。グレイ・グースの千里  
 ルはどリアえず漫画に向けられてい  
 る。

- 72.5.26 「お八百屋おシツちゃん」 漫画アクション増刊パピヨン
- (72.6 「抱きしめたい」 矢作俊作 ミステリマガジン
- 72.8.26 「抱きしめたい」 マンガストーリー ミステリマガジン
- (72.9 「小説」 「夕焼けのストーリー」 ミステリマガジン
- 72.9.5 11 「しるしにくまのまるをめて」 (未完) ヤングコミック(2回)
- (72.10.5 12 「革命三日即書法・君ヒモ 革命が起る」 スタンオ・ナノ ポップコミック(3回)
- 72.11 「文章」 「ノド云えない男」 話の特集
- 73.1.5 74.6 「THE LONG GOOD-BYE」 ミステリマガジン
- (73.4.5 「小説」 「神様の代理人」 矢作俊彦・NOW(19)
- 73.5.10 「帆船の皮をむいてかな」 週刊漫画アクション(2回)
- 73.5.2 現在 村

- 69.7.30 「命枯れても」 漫画アクション 増刊
- 69.9.9 「此若の下に君が世界を」 週刊漫画アクション
- 69.11.1 「ドンキホーテ!!」 本誌は誰だぞ! 週刊漫画アクション
- (69.12.18 「ふしぎの国のありす」 ラッキ  
ラック 週刊漫画アクション)
- 69.9.9 「此若の下に君が世界を」 週刊漫画アクション
- 69.11.1 「ドンキホーテ!!」 本誌は誰だぞ! 週刊漫画アクション
- (69.12.18 「ふしぎの国のありす」 ラッキ  
ラック 週刊漫画アクション)



◎ 公薄明の現在について

中原 南

今回、まんがジャーナルとして評論集を出すことに存りました。私毛何か書けと云われまして、私毛かく何か書かねばならなかつたのですが、このまんがジャーナルの発刊される経緯なり、評説自体の理念なり同人の態度というものは他の同人が書いてくれるでしょうし、さしあつたつての評論対象を持ちえない私ばかりひとしきり困惑したので、アップル、コアに連載中の公薄明の現在について評説について書くことにしました。二の薄明の現在を執筆して、再庭・高岩両氏はともにまんがジャーナル同人でありまして、面識もあり一応両氏の志向などものがつておるのですが、改めて公薄明の現在について述べるの基本的評説態度を明示したいと

そう思います。

「公薄明の現在」一章銀色の少女たちには亜庭氏によるものですが、冒頭に曰ふのは、まんが状況の総括的把握を目的とした作業だといふ語に對する「我々」の内題意識の具体的対象を取り上げることによつて、読者は「我々」が志向している方向を、ある程度指示されるだろうし、「我々」もその指向を、この作業を通じて徐々に集約してゆくべきであります。このまんが状況の総括的把握というテーマの提出は、例えば映画好きの青年が「おもしろい」と思つた映画について、また、女学生が小説について「おもしろい」と思つた小説について各々の作品についてそのおもしろさを自己の内面に感応して語り出す時の感情と全く同じ質のものなのである。「おもしろい」というのは全く主観に属する感情です

か、何故、おもしろいと思うのかと  
と自問した場合、それは究極には「  
おもしろいからだ」という同語反復  
に帰着しますが、その究極の結論を  
ひとまず考慮しないとしても「お  
もしろい」と思った感情の内的経緯を  
仔細に語りつと語ることが評論家  
と厳格な批評家との差がある。そ  
の評論の本来的な姿勢は、その  
私に評論家もしくは評論するものの  
姿勢について以前から不満に思っ  
ていたので、何故か、も自分の感  
情を軽視するのだからということ  
おもしろい感情に客観的というものが  
いのであるから評論自体主観作業に  
すぎません。必ずしも評論をいかに  
理論的に分析しおもしろいも自己の  
感情を離れて語ることはかたがた  
なことと思ふのですが、現代の評論  
家にはこの苦痛がないのかもしれ  
ません。

この公簿明の現在を担当した重  
庭・高宮両氏はこうして評論家に対  
する反対の姿勢をうち出したものと  
思います。そしてこの場合評論家と  
いうのは日漫画主義者に知を運らね  
る人々をいうのだと思ひます。日漫  
画主義者の評論家達に対する批判の  
第一声として、まず日漫画主義者が  
行ったことはいわゆる漫画を難解  
化したことであるとの認識から「お  
もしろい」という感情を誠実に語ら  
うとしたことです。こうして認識  
基本的態度は認められてしかるべき  
ものであつた。

う理由から、こうして彼らに注目に  
値すると思ふたのではありません。  
彼らは評論することを創作へのワン  
ステップとしてうち出してゐること、  
これは評論家の良心ともいふべき作  
家と評論家の肉けの相肉性（相  
肉性）を自覚意識として彼らの評論  
の基本的態度となしてゐることです。  
作品は常に読者に一方的に閉るの  
であつて、作家自身の使命としての  
コミニニティにありながらその本  
質は作品は常にコミニニティにあり  
えぬという背反性に評論家は常にラ  
ジカルに立ちまねばなりません。  
（この場合コミニニティを伝播性と  
代置すべきではなくやはり交換性  
すべきです。）つまり作家自身の  
思念が提出された時点において、そ  
の作家は作品を提出したということ  
に責任を負わねばなりません。ま  
た受けとつた側の読者は常に受けと  
つた思念に対して何らかの責任を持

はずです。そしてこれがコミニニティ  
のあるべき姿です。始めて社会性  
というべき情報交換が成立するの  
です。

こうして観点から重庭・高宮氏の  
姿勢を評価するのである。  
しかし、この公簿明の現在を自  
体には問題があります。それは秋が数  
年前宮谷一彦が、自作「ライク・ア  
ローリング・ストーン」中に朱意の  
どん底から発したかのどき苦境に  
満ちた四所論、文学は虚構だ、と  
て誤謬として出たマングに何  
ぞさういふと懐疑に彼らは答  
えたのかという事です。眼に見える  
ものが常に存在するものが哲理であ  
るべきです。しかし私にはこの  
宮谷の痛切な発言が、眼に見えない  
ものもあるのだ、という存在論的  
なテーゼを代弁したように思ふます。  
公簿明のとりえをこの以前に果

後記

ようやく出来上がりました。とは云っても計画して、原稿依頼、編集、印刷まで、全部で一ヶ月程の向に片づけられました。みんなちゃんと予定日までに原稿を書いちゃくれたので非常に助かります。今回は別に下マを決めずに各自自由に書いてもらいました。杜氏のみ何となく下マがあるようになって、... オメンばい。読んだ人、反論、意見、悪口など何か云いたいことがあれば送って下さい。待ってます。(高宮)

して公認明として存在しているのかと向われれば有りません。確かに映るまんが状況を説明する二つも大切ですが。しかし、いざまんが自体を作品行為として表現する場合、この存在論的傾向を無視してあることほど正しいと思ふのです。私にはまんがはやはり所詮まんがでしかないと思えるのです。作品行為云々以前に所詮...と思えるからこそ、私は逆に所詮...に重点をおさるべき時点から出発したのである。ですから公認明の現在では重大な欠陥が指摘されます。第二章の冒頭に公認明という時点を、少女マンガがなんらかの意味を持ち得るであろうか? (中略) 少女マンガは現在の状況にどう十分すぎる程の意味をつきつけてくると思われるからである。その文章を、少女マンガを単にマンガと云い換える場合この重なりが自覚的肯定性のうえに成り立つていようという事に気がくはずです。公認した地点が全く違っており、私にはこうして意味・無意味

味という外比の段階で評論する事は出来ぬわけだ。ここにありてマンガはマンガであるという同語反復をまず認容することではマンガの意味・無意味云々と云いえなかった。重なりが意識の状況は存在する。このように私は疑惑を投げかけます。また第二章しか書かれていない公認明の現在を非難する愚を犯したくはありませんが、本質的な問い故に私は重なり・高宮氏に、そして公認明の現在とあるまんが状況に、私には開かれたいかねが有りません。そして私達つたりマンガを読む者も、描く者もやはりマンガにラジカルな相関性を常に持ち続けていなくてはならないでしょう。

◎次号予告

特集 あしたはじつちだ!?

ぼくらにとって、として状況に対して、あしたのジョーシが、終了してはどんな意味をもつのか? 終了後の状況はどうか? など

大好評 折り込みメールが次号は大増ページでお送りする。

★その他の企画がめじろ押し!

F544  
大阪府生野区鶴橋2丁目11-25  
ましががメール2月号以後が録し  
人は、郵送料ともに100円、一年分  
40円を以下のところに送って下さい  
ましがが成河  
TEL 06-717-3575



木 雄

まんがジャーナル

昭和48年5月4日初版発行

昭和 年 月 日 2版発行

発行所・ビク3仮面社

発行人・高宮成河

協力・木雄会

印刷所・関西大学まんが同好会印刷局

印刷局長・早川啓一